

ダブルライン・シラー・ケープ米国株式プラス ＜為替ヘッジなし＞

追加型投信／内外／資産複合

受益者の皆さまへ

毎々格別のお引き立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

さて、ご投資いただいております「ダブルライン・シラー・ケープ米国株式プラス＜為替ヘッジなし＞」は、2019年4月25日に第2期決算を行いました。

当ファンドは、主としてシラー・バークレイズ・ケープ米国セクター指数を活用した米国株式戦略およびダブルラインの債券戦略を活用して、トータルリターンの向上を目指します。原則として為替ヘッジを行いません。当作成対象期間につきましても、これに沿った運用を行いました。ここに期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

作成対象期間 2018年4月26日～2019年4月25日

| | | |
|----------------------|----------------|----------|
| 第2期 | 決算日：2019年4月25日 | |
| 第2期末 (2019年4月25日) | 基準価額 | 12,202円 |
| | 純資産総額 | 2,863百万円 |
| 第2期 | 騰落率 | 17.6% |
| | 分配金合計 | 0円 |

(注1) 騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率を表示しています。
(注2) △ (白三角) はマイナスを意味しています (以下同じ)。

当ファンドは投資信託約款において、運用報告書(全体版)を電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記のホームページにアクセスし、「基準価額一覧」等から当ファンドの名称を選択いただき、ファンドの詳細ページから閲覧、ダウンロードすることができます。また、運用報告書(全体版)は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

■運用報告書に関するお問い合わせ先

コールセンター **0120-104-694**

(受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで)

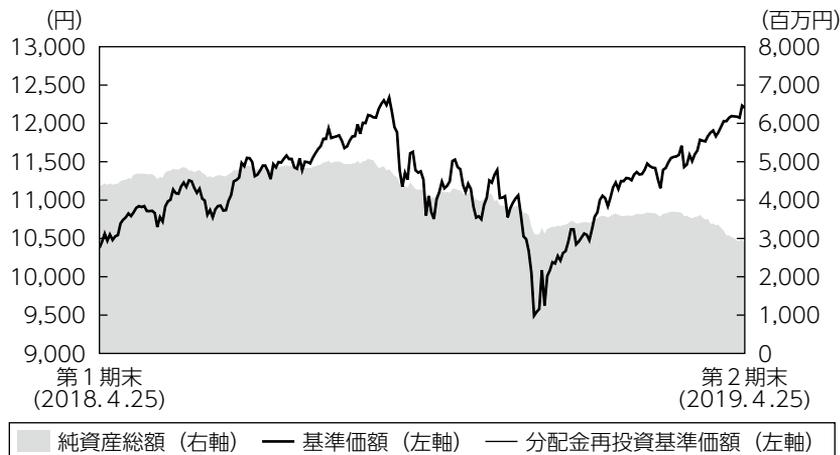
お客さまのお取引内容につきましては、購入された販売会社にお問い合わせください。

アセットマネジメントOne 株式会社

東京都千代田区丸の内1-8-2 <http://www.am-one.co.jp/>

運用経過の説明

基準価額等の推移



第2期首：10,377円
 第2期末：12,202円
 (既払分配金0円)
 騰落率：17.6%
 (分配金再投資ベース)

- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまが利用するコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、期首の基準価額に合わせて指数化しています。
- (注4) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示してあります。
- (注5) 当ファンドはベンチマークを定めておりません。

基準価額の主な変動要因

ダブルライン・ケイマン・ユニット・トラスト・ダブルライン・シラー・エンハンスト・ケープ・サブファンド（以下、「ダブルライン・ファンド」という場合があります。）等への投資を通じて米国株式ならびに債券を中心に投資を行いました。上記の運用の結果、米国株式の上昇、円安米ドル高などを背景に基準価額は上昇しました。

【主な上昇要因】

- ・米国株式市場の堅調な推移
- ・円安米ドル高
- ・債券投資における利息収入等

【主な下落要因】

- ・特になし

1 万口当たりの費用明細

| 項目 | 当期 | | 項目の概要 |
|-----------|-----------------------------|---------|--|
| | (2018年4月26日 ～2019年4月25日) | | |
| | 金額 | 比率 | |
| (a) 信託報酬 | 136円 | 1.220% | (a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は11,113円です。 投信会社分は、信託財産の運用、運用報告書等各种書類の作成、基準価額の算出等の対価 販売会社分は、購入後の情報提供、交付運用報告書等各种書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価 受託会社分は、運用財産の保管・管理、投信会社からの運用指図の実行等の対価 |
| (投信会社) | (42) | (0.378) | |
| (販売会社) | (90) | (0.810) | |
| (受託会社) | (4) | (0.032) | |
| (b) その他費用 | 0 | 0.004 | (b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用 その他は、信託事務の処理に要する諸費用 |
| (監査費用) | (0) | (0.004) | |
| (その他) | (0) | (0.000) | |
| 合計 | 136 | 1.224 | |

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、その他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

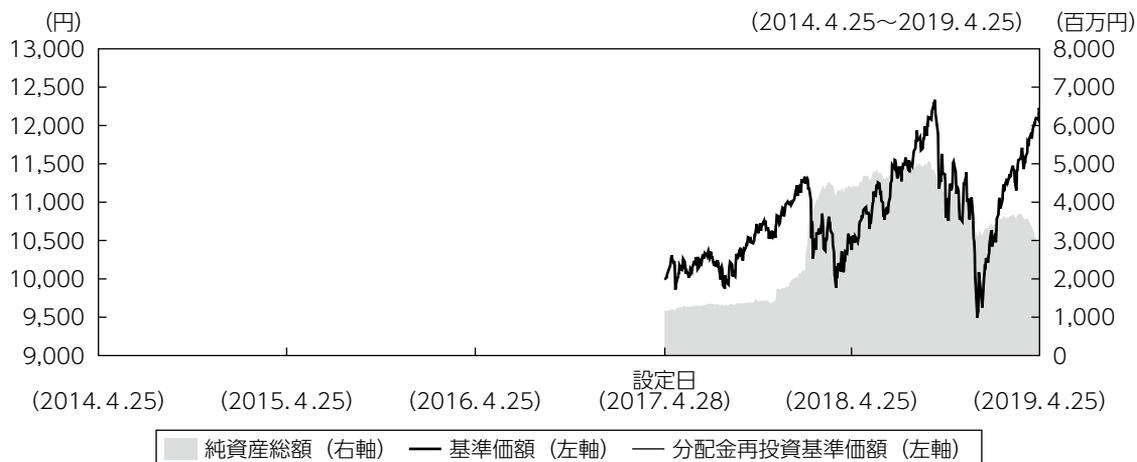
(注2) 金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。項目ごとに小数点以下第4位を四捨五入してあります。

(注4) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く）が支払った費用を含みません。

(注5) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては組入ファンドの概要に表示することとしております。

最近5年間の基準価額等の推移



- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまが利用するコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、設定日の基準価額に合わせて指数化しています。ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示してあります。

| | | 2017年4月28日 設定日 | 2018年4月25日 決算日 | 2019年4月25日 決算日 |
|----------------|-------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 基準価額 (分配落) | (円) | 10,000 | 10,377 | 12,202 |
| 期間分配金合計 (税引前) | (円) | — | 0 | 0 |
| 分配金再投資基準価額の騰落率 | (%) | — | 3.8 | 17.6 |
| 参考指数の騰落率 | (%) | — | 10.0 | 16.9 |
| 純資産総額 | (百万円) | 1,170 | 4,358 | 2,863 |

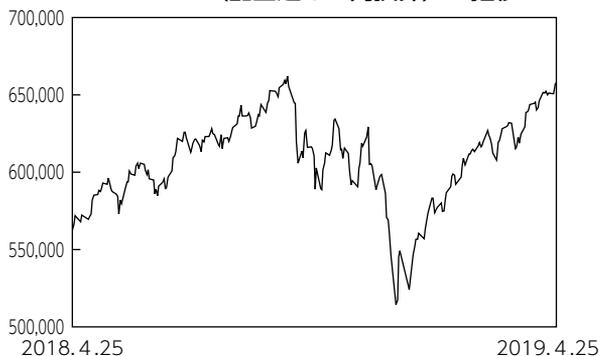
- (注1) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示してあります。
- (注2) 純資産総額の単位未満は切り捨てて表示してあります。
- (注3) 騰落率は設定日との比較です。ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2018年4月25日の騰落率は設定当初との比較です。
- (注4) 当ファンドはベンチマークを定めておりません。参考指数はS&P500 (配当込み、円換算) です。参考指数については後掲の<当ファンドの参考指数について>をご参照ください。
参考指数は投資対象資産の相場を説明する代表的な指数として記載しているものです。
- (注5) 参考指数は、基準価額への反映を考慮して、基準価額算出日前日の指数値を基準価額算出日当日の為替レート (対顧客電信売買相場仲値) で円換算してあります。

投資環境

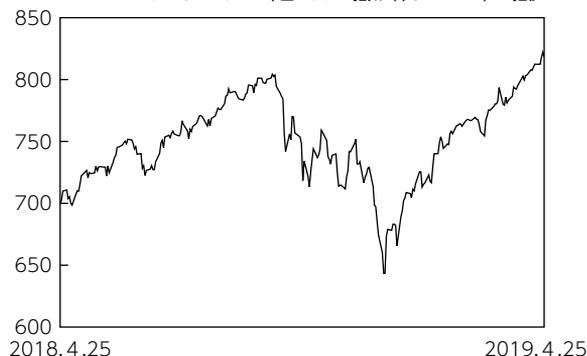
● 米国株式市場

世界的な景気の減速懸念などを受けて一時大きく下落する場面もありましたが、米国の追加利上げ観測の後退や、米中間の貿易問題に対する楽観的な見方を背景に上昇しました。セクター別では、決算発表や景気に対する過度な警戒感の後退などを背景にテクノロジーの上昇が目立った一方、商品価格の伸び悩みなどを受けてエネルギーセクターが冴えない展開となりました。

S&P500（配当込み、円換算）の推移



シラー・パークレイズ・ケープ米国セクター指数 (米ドルベース) の推移

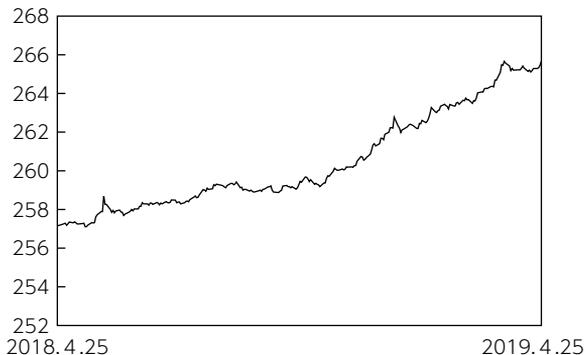


※パークレイズ・バンク・ピーエルシー及びその関連会社（以下「パークレイズ」と総称します。）は、ダブルライン・シラー・ケープ米国株式プラス<為替ヘッジなし>（以下「本ファンド」といいます。）の発行者又は作成者ではなく、パークレイズは、本ファンドの投資家に対して何ら責任又は義務を負いません。シラー・パークレイズ・ケープ米国セクター指数（以下「本指数」といいます。）はパークレイズ・バンク・ピーエルシーの所有する商標であり、本ファンドによる使用のためにライセンスが付与されています。本ファンドは本指数について又は本指数に関連してパークレイズと取引をする場合がありますが、本ファンドの投資家は本ファンドに対する利益のみ取得し、投資家は、本ファンドへの投資にあたって、本指数に対するいかなる利益も取得せず、また、パークレイズとの間でいかなる種類の関係も取得しません。本ファンドはパークレイズによって出資、承認又は販売促進されておらず、パークレイズは、本ファンドの推奨度又は本指数若しくは本指数に含まれるいかなる情報の使用に関して何らの表明も行いません。パークレイズは、本指数又は本指数に含まれるいかなる情報の使用又は正確性に関して、本ファンド、投資家の皆様又はその他の第三者に対して、何らの責任も負わないものとします。シラー・パークレイズ・ケープ米国指数ファミリー（以下「本指数ファミリー」といいます。）は、その一部につき、RSBB-I, LLC（主たる研究者はロバート・J・シラー氏）により開発されています。RSBB-I, LLCは、投資助言業者ではなく、本指数ファミリー又は本指数ファミリーに含まれる若しくは本指数ファミリーが依拠するいかなる情報若しくは手法の正確性及び完全性についても保証しません。RSBB-I, LLCは、本指数ファミリーのいかなる誤り、欠落又は障害についても責任を負わないものとし、本指数ファミリーに含まれる又は本指数ファミリーが依拠する情報の使用によりいかなる当事者に生じた運用実績又は結果についても、明示又は黙示を問わず、何らの表明も行わず、それらについての全ての商品性又は特定の目的に適用していることでの保証を明示的に否認します。また、RSBB-I, LLCは、当該情報の使用に関連するいかなる性質の請求又は損害（逸失利益、懲罰的損害又は間接的損害を含みますが、それらに限られません。）について、仮に当該請求又は損害の可能性についてRSBB-I, LLCが知っていた場合であっても、責任を負わないものとします。

● 米国債券市場

米国の景気動向や金融政策の方向性を受けて、利上げの影響から超短期ゾーンが軟調となった一方で、先行きの利上げ観測が大きく後退したことから中長期ゾーンでは堅調となりました。当期中、米国では2018年中は米国景気の堅調さから複数回利上げが行われましたが、2019年に向かうにつれ、徐々に景気の先行き不透明感が強まりました。こうしたことから、F R B（米国連邦準備制度理事会）は、先行きの利上げに対して消極的な姿勢を示しています。

ブルームバーグ・パークレイズ米国総合1-3年指数（米ドルベース）の推移

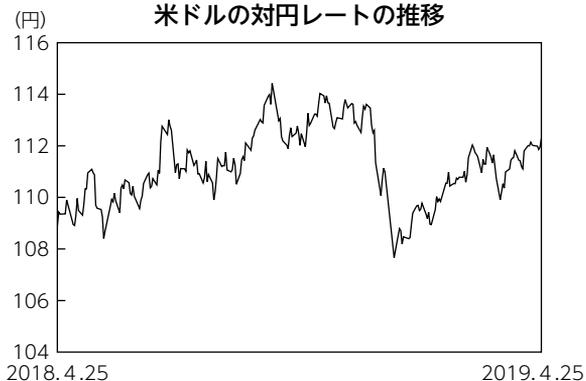


※ブルームバーグは、ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピーの商標およびサービスマークです。パークレイズは、ライセンスに基づき使用されているパークレイズ・バンク・ピーエルシーの商標およびサービスマークです。ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピーおよびその関係会社（以下「ブルームバーグ」と総称します。）またはブルームバーグのライセンサーは、ブルームバーグ・パークレイズ・インデックスに対する一切の独占的権利を有しています。

● 為替市場

世界的な景気の減速懸念などを受けたリスク回避の動きから一時大きく円高となる場面もありましたが、2019年における米国の追加利上げの可能性が大きく後退し、リスク選好の流れとなったほか、米国の経済指標が底堅い結果となったことなどから円安に転じました。

米ドルの対円レートの推移



●国内短期金融市場

3ヵ月物国庫短期証券の利回りは、一時マイナス幅を深める場面もある中、日銀の短期国債の買い入れ姿勢や海外勢の需要などを受けて、マイナス圏で推移しました。

■ポートフォリオについて

●当ファンド

ダブルライン・ファンドへの投資配分については、当期を通して高位としました。また、日本短期公社債マザーファンドへの投資も継続しました。

●ダブルライン・ファンド

ダブルライン・ファンドでは、トータル・リターン・スワップを活用することでロバート・シラー氏の理論を基に開発されたシラー・バークレイズ・ケープ米国セクター指数に概ね連動する投資成果の獲得を図る一方、米ドル建ての債券をはじめグローバルの様々な債券への投資から得られる投資成果の確保を目指して運用を行いました。株式部分においてはトータル・リターン・スワップを活用し、期末時点ではコミュニケーション・サービス、生活必需品、エネルギー、情報技術セクターに投資しています。債券部分では米国国債、社債、資産担保証券など様々な債券を保有しております。

●日本短期公社債マザーファンド

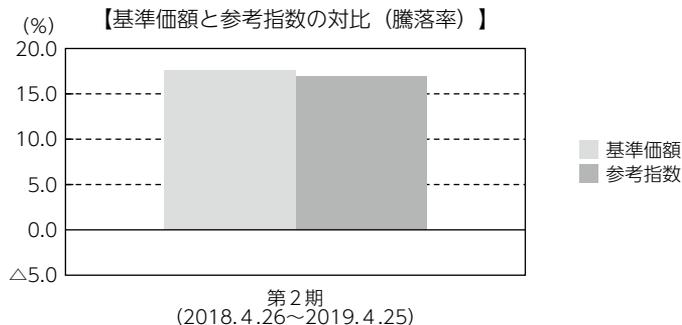
主としてわが国の短期公社債に投資し、安定した収益の確保を目指す運用方針を維持しましたが、マイナス利回りの債券については投資を見送りました。期末時点の債券組入比率は0%となっています。



※当作成期間における分配金（累計）を加算しています。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。
グラフは、基準価額と参考指数の騰落率の対比です。



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税引前）込みです。

分配金

収益分配金につきましては運用実績等を勘案し、無分配とさせていただきます。なお、収益分配金に充てなかった利益は信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

分配原資の内訳（1万円当たり）

| 項目 | 第2期 |
|------------|---------------------------|
| | 2018年4月26日 ～2019年4月25日 |
| 当期分配金（税引前） | －円 |
| 対基準価額比率 | －% |
| 当期の収益 | －円 |
| 当期の収益以外 | －円 |
| 翌期繰越分配対象額 | 2,201円 |

(注1) 「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下切捨てで算出しているためこれらを合計した額と「当期分配金（税引前）」の額が一致しない場合があります。

(注2) 当期分配金の「対基準価額比率」は「当期分配金（税引前）」の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

(注3) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益（含、評価益）」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備積立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

今後の運用方針

米国経済は、引き続き底堅い景気動向が見込まれますが、欧州の景況感指数が悪化するなど、世界景気の先行きには注視する必要があります。米国市場の堅調さは、経済指標が比較的良好であることが一部寄与していると考えられ、世界的な景気の悪化が顕在化するにつれ、リスク資産の値動きが荒くなる可能性があると考えています。引き続き市場動向に注視しながら保守的な運用を実施していく方針です。

●当ファンド

ダブルライン・シラー・ケープ米国株式プラス<為替ヘッジなし>では、資金動向や市場動向に留意し、引き続きダブルライン・ファンドの高位組み入れならびに日本短期公社債マザーファンドへの投資を継続する方針です。

●ダブルライン・ファンド

上記市場見通しの下、株式部分に関しては、引き続きトータル・リターン・スワップを活用することでシラー・バークレイズ・ケープ米国セクター指数に概ね連動する投資成果の獲得を図る方針です。債券部分に関しては、米ドル建ての債券をはじめグローバルの様々な債券の中から、魅力的な債券に適切なタイミングで厳選投資を行い、投資成果の確保を目指す方針です。

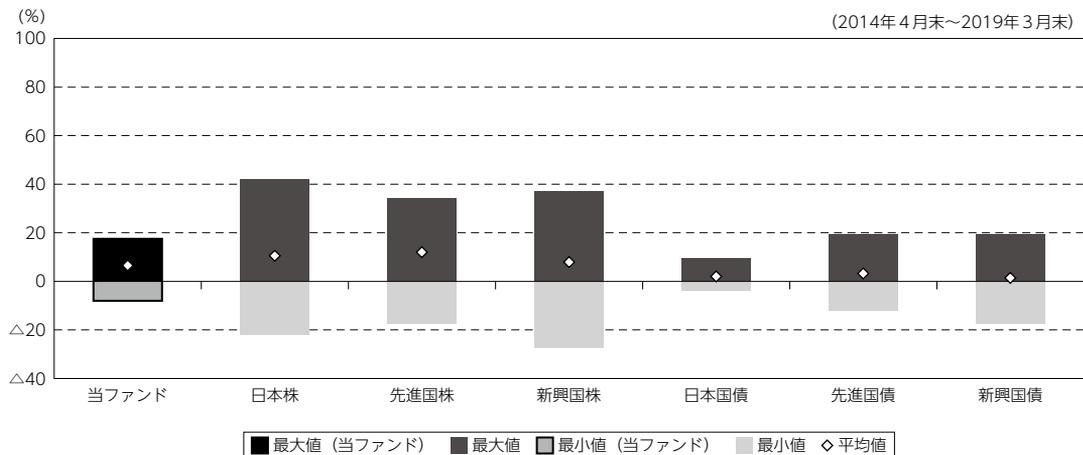
●日本短期公社債マザーファンド

金利水準等に注視しながらわが国の短期公社債を中心に投資を行い、安定した収益の確保を目指しますが、市場環境によっては、目標とする運用ができない場合があります。

当ファンドの概要

| | | |
|--------|---|--|
| 商品分類 | 追加型投信／内外／資産複合 | |
| 信託期間 | 2027年4月26日まで | |
| 運用方針 | 投資信託証券を主要投資対象とします。 | |
| 主要投資対象 | ダブルライン・シラー・ケープ米国株式プラス<為替ヘッジなし> | 投資信託証券。 |
| | ダブルライン・ケイマン・ユニット・トラストーダブルライン・シラー・エンハンスト・ケープ・サブファンド | 国債や社債、証券化商品を含む様々な債券。また実質的な株式への投資手段としてトータル・リターン・スワップを活用します。 |
| | 日本短期公社債マザーファンド | 本邦通貨建ての公社債。 |
| 運用方法 | <p>①主として、以下の投資信託証券に投資します。 ケイマン諸島籍外国投資信託 ダブルライン・ケイマン・ユニット・トラストーダブルライン・シラー・エンハンスト・ケープ・サブファンド（以下、「ダブルライン・ファンド」といいます。）米ドル建受益証券 内国証券投資信託（親投資信託） 日本短期公社債マザーファンド受益証券</p> <p>②ダブルライン・ファンドは主としてトータル・リターン・スワップを活用することでロバート・シラー氏の理論を基に開発されたシラー・バークレイズ・ケープ米国セクター指数に概ね連動する投資成果の獲得を図る一方、米ドル建ての債券をはじめとするグローバルの様々な債券に投資し、経済環境や市場動向を勘案した債券種別アロケーションや個別銘柄選定等を実施することで得られる投資成果の確保を目指します。</p> <p>③各投資信託証券への投資割合は、資金動向や市況動向等を勘案して決定するものとし、ダブルライン・ファンドの組入比率は、原則として高位とすることを基本とします。</p> <p>④組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。</p> | |
| 分配方針 | 分配対象額の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。分配金額は、委託者が基準価額水準、市況動向等を勘案して、決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は分配を行わない場合があります。留保益の運用については、特に制限を設けず、運用の基本方針に基づいて運用を行います。 | |

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位：%)

| | 当ファンド | 日本株 | 先進国株 | 新興国株 | 日本国債 | 先進国債 | 新興国債 |
|-----|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|
| 最大値 | 17.5 | 41.9 | 34.1 | 37.2 | 9.3 | 19.3 | 19.3 |
| 最小値 | △8.0 | △22.0 | △17.5 | △27.4 | △4.0 | △12.3 | △17.4 |
| 平均値 | 6.5 | 10.5 | 12.0 | 7.9 | 2.0 | 3.2 | 1.4 |

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2014年4月から2019年3月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドは、2018年4月以降の年間騰落率を用いています。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

*各資産クラスの指数

日本株……東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株…MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株…MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債…NOMURA-BPI国債

先進国債…FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債…JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

※各指数については後掲の<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>をご参照ください。

各資産クラスの騰落率について

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに、株式会社野村総合研究所が計算しております。株式会社野村総合研究所及び各指数のデータソースは、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、株式会社野村総合研究所及び各指数のデータソースは、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

当ファンドのデータ

当ファンドの組入資産の内容（2019年4月25日現在）

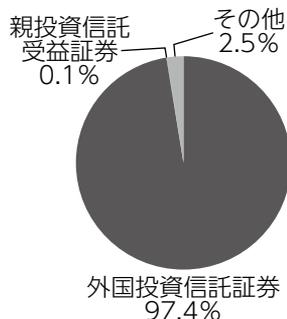
◆組入ファンド等

| | 第2期末 |
|--|------------|
| | 2019年4月25日 |
| ダブルライン・ケイマン・ユニット・トラストーダブルライン・シラー・エンハンスト・ケープ・サブファンド | 97.4% |
| 日本短期公社債マザーファンド | 0.1 |
| 組入銘柄数 | 2銘柄 |

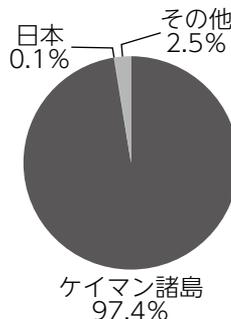
(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載してあります。

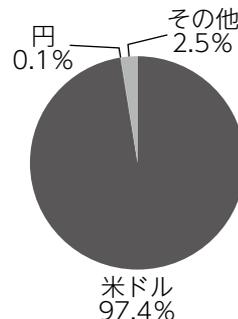
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示してあります。

(注3) その他は、純資産総額から有価証券等を差し引いた数字です。

(注4) 比率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示してあります。なお、合計は、四捨五入の関係で合わない場合があります。

純資産等

| 項目 | 第2期末 |
|------------|----------------|
| | 2019年4月25日 |
| 純資産総額 | 2,863,303,286円 |
| 受益権総口数 | 2,346,590,242口 |
| 1万口当たり基準価額 | 12,202円 |

(注) 当期中における追加設定元本額は353,005,610円、同解約元本額は2,206,584,859円です。

組入ファンドの概要

[ダブルライン・ケイマン・ユニット・トラストーダブルライン・シラー・エンハンスド・ケープ・サブファンド]

◆基準価額の推移



◆1万口当たりの費用明細

(2017年5月1日～2018年5月31日)

当該期間の1万口当たりの費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。

◆組入上位10銘柄

(2018年5月31日現在)

| | 銘柄名 | 業種／種別等 | 通貨 | 国（地域） | 比率 |
|-------|--|-------------|------|-------|------|
| 1 | U.S. Treasury Bill 0.00% due 10/18/2018 | 米国債および政府機関債 | 米ドル | アメリカ | 6.7% |
| 2 | U.S. Treasury Bill 0.00% due 06/07/2018 | 米国債および政府機関債 | 米ドル | アメリカ | 6.1 |
| 3 | U.S. Treasury Note 2.00% due 08/31/2021 | 米国債および政府機関債 | 米ドル | アメリカ | 5.3 |
| 4 | U.S. Treasury Note 1.50% due 12/31/2018 | 米国債および政府機関債 | 米ドル | アメリカ | 5.1 |
| 5 | U.S. Treasury Bill 0.00% due 08/16/2018 | 米国債および政府機関債 | 米ドル | アメリカ | 5.0 |
| 6 | U.S. Treasury Bill 0.00% due 07/19/2018 | 米国債および政府機関債 | 米ドル | アメリカ | 3.9 |
| 7 | U.S. Treasury Bill 0.00% due 09/20/2018 | 米国債および政府機関債 | 米ドル | アメリカ | 3.9 |
| 8 | U.S. Treasury Inflation Indexed Bond 0.13% due 04/15/2019 | 米国債および政府機関債 | 米ドル | アメリカ | 3.8 |
| 9 | U.S. Treasury Note 2.13% due 09/30/2021 | 米国債および政府機関債 | 米ドル | アメリカ | 3.4 |
| 10 | Lendmark Funding Trust Series 2017-1A Class A 2.83% due 12/22/2025 (a),(b) | 資産担保証券 | 米ドル | アメリカ | 2.0 |
| 組入銘柄数 | | | 71銘柄 | | |

(注1) (a)144A証券－1933年証券取引法144A規則に基づき登録を免除されている有価証券です。この証券は登録が免除された取引で、通常、適格機関投資家に転売されます。特に記載がない場合、この証券は流動性が低いとは見なされません。

(注2) (b)任意償還条項付証券です。

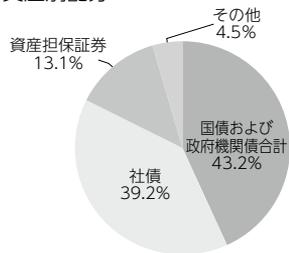
(注3) 比率はダブルライン・ケイマン・ユニット・トラストーダブルライン・シラー・エンハンスド・ケープ・サブファンドの純資産総額に対する割合で、小数第2位を四捨五入してあります。

(注4) 国（地域）につきましては発行国もしくは投資国を表示してあります。

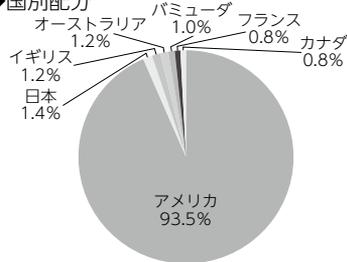
(注5) 上記の表は、ブラウン・ブラザーズ・ハリマン・アンド・カンパニー提供の財務書類およびダブルライン・キャピタル・エル・ピーが作成したデータをもとに記載してあります。

(注6) 組入銘柄に関する詳細な情報につきましては、運用報告書（全体版）に記載してあります。

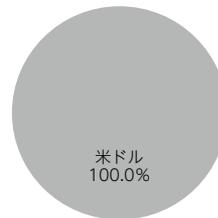
◆資産別配分



◆国別配分



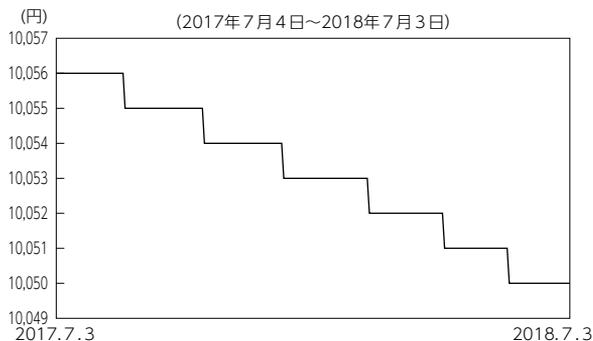
◆通貨別配分



- (注1) 資産別配分はダブルライン・ケイマン・ユニット・トラストーダブルライン・シラー・エンハンスト・ケープ・サブファンドの純資産総額に対する比率です。
- (注2) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示してあります。
- (注3) 国別配分、通貨別配分の比率は、ダブルライン・ケイマン・ユニット・トラストーダブルライン・シラー・エンハンスト・ケープ・サブファンドのポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。
- (注4) その他は、純資産総額から有価証券を差し引いた数字です。
- (注5) 比率は、小数点以下第2位を四捨五入しています。なお、合計は、四捨五入の関係で合わない場合があります。
- (注6) 上記のグラフは、ブラウン・ブラザーズ・ハリマン・アンド・カンパニー提供の財務書類およびダブルライン・キャピタル・エル・ピーが作成したデータをもとに記載してあります。

[日本短期公社債マザーファンド]

◆基準価額の推移



◆1万口当たりの費用明細

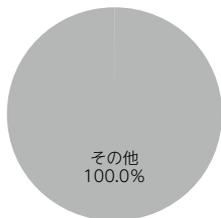
該当事項はございません。

(2017年7月4日～2018年7月3日)

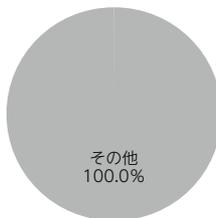
◆組入上位10銘柄

2018年7月3日現在、有価証券等の残高はございません。

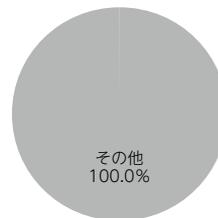
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) その他は、純資産総額から有価証券等を差し引いた数字です。

(注3) 比率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示してあります。なお、合計は、四捨五入の関係で合わない場合があります。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。

<当ファンドの参考指数について>

●S&P500（配当込み、円換算）

S&P500（配当込み）は米国の主要産業を代表する500社から構成される指数です。

S&P500（配当込み、円換算）は、S&P500（配当込み）をアセットマネジメントOneが円換算したものです。

S&P500（配当込み）は、S&Pダウ・ジョーンズ・インデックスLLCまたはその関連会社の商品であり、これを利用するライセンスが委託会社に付与されています。

S&Pダウ・ジョーンズ・インデックスLLC、ダウ・ジョーンズ・トレードマーク・ホールディングズLLCまたはその関連会社は、いかなる指数の資産クラスまたは市場セクターを正確に代表する能力に関して、明示または黙示を問わずいかなる表明または保証もしません。また、S&P500（配当込み）のいかなる過誤、遺漏、または中断に対しても一切責任を負いません。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

- 「東証株価指数（TOPIX）」は、東京証券取引所第一部に上場されているすべての株式の時価総額を指数化したものです。同指数は、株式会社東京証券取引所（㈱東京証券取引所）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、㈱東京証券取引所が有しています。
- 「MSCIコクサイ・インデックス」は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、日本を除く世界の主要先進国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「MSCIエマージング・マーケット・インデックス」は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、新興国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「NOMURA-BPI国債」は、野村證券株式会社が国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表すために開発した投資収益指数です。同指数の知的財産権その他一切の権利は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
- 「FTSE世界国債インデックス（除く日本）」は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。
- 「JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド」は、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが公表している新興国の現地通貨建ての国債で構成されている時価総額加重平均指数です。同指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。また、同社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。